

コウノトリ(コウノトリ科) 全長112センチ

コウノトリが県内に飛来してから一月が経過しました。

千葉県野田市が2015年7月に放鳥したもので、8月4日に山形県酒田市から由利本荘市に移動し、大仙市を経て7日に仙北市に到達し現在まで滞在しています。2歳の雌で名前は未来(みき)ちゃんです。現在、国内の野生コウノトリは絶滅したとされています。

県内では、大陸から飛来した野生コウノトリが幾度か観察されていますが、放鳥された個体が確認されたのは初めてです。国の特別天然記念物に指定されていますが、2011年1月、同じく特別天然記念物に指定されるトキが飛来したのも仙北市でした。



左右4個の足環から個体識別されました。

野鳥の会の情報を頼りに、こちら付近と思われる場所に3回も通ったがどこにも見当たらず。4回目には、今までの時間帯をずらして現地に向かいやっとお会いすることが出来ました。玉川の支流で、さほど広くない河川です。アオサギやダイサギなどとともに、中洲や浅瀬に佇んでいます。

前触れもなく川から飛び立つと、周辺の田んぼに移動した。畦道を歩きながら餌探していますが、何を食べているのかは確認できません。長いクチバシで地面を突いていますが、時々ずっと首をもたげ周囲の警戒を怠ることはありません。

近づくと逃げ出す逃走距離は200mぐらいと判断。これ以上の接近は控えることにしました。



中洲で羽繕いしながら、くつろぎ中。



田んぼの畦道でじっとしたまま動きません。背中の発信機がよくわかります。

後日、浅瀬の水際を歩きながらクチバシを水中に刺し込み、何かを探っています。

真っ赤な蟹の様な獲物をクチバシでくわえ上げ、ブルブルと左右に振り回し、何度か繰り返してやっと飲み込むことが出来ました。

再生映像で確認したところ、アメリカザリガニでした。



飛ぶときは首を伸ばしたままで、サギ類と区別されます。足は赤い。



背中にはアンテナが。

周辺は、農作業で訪れる人以外はほとんどなく、安心して棲息しているのでしょう。

私も含めて、やたらと野次馬どもが集まらない環境が大切です。いずれこの場所は巷に知れ渡ることになるでしょう。

最低限、200m以上の距離を保つながら眺めてもらいたいところです。



アメリカザリガニをゲット。



アオサギと並ぶと大きさが分かります。

こうした配慮をすることにより、コウノトリさんはもう少し長く滞在してくれることを願っています。